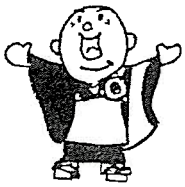
光林寺寺報　第5号

なますて

平成23年12月1日発行



住職あいさつ

『形あるものはいつか壊れ、命あるものは必ず亡くなる…』

これは、お釈迦様の教えの根本である「無常」という考えです。この教えは、この度の東日本大震災で実感された方も多かったのではないでしょうか。

お釈迦様は80歳で亡くなられる直前に、弟子のアナン(阿難)に対して最後の教えを説いたと伝えられています。それは、「すべてのものは移りゆく、怠ることなく励みなさい！」ということでした。なんと平凡な、そしてなんと当たり前のことを最後の最後に説かれたのだろうか…と不思議だったのですが、よく考えてみるとありのままをありのままに受け止めること、当たり前のことを当たり前に実践することが、如何に難しいことであり大切なことであるか…ということを伝えたかったのではないかと思うようになりました。

時宗の開祖である一遍上人の言葉に、「平生即臨終（へいぜいそくりんじゅう）　臨終即平生（りんじゅうそくへいぜい）」というものがあります。「日々の生活」と「臨終」はイコールであるというのです。禅問答のようですが…私の解釈では、「死」は「生」のずっとずっと先にあるものではなく、「死」と「生」は表と裏、表裏一体のものであるということ、つまり、吸う息が「生」で吐く息が「死」、一呼吸一呼吸が「生」と「死」を繰り返していると言うことではないかと思います。日々の生活の中で「死」を意識することで、「生」が深く豊かになるという死生観と言えるでしょう。

そうは言っても「死」を意識するというのは、なかなか難しいことですね。そこでこんなトレーニングは如何でしょう。寝る時に布団の中で、「ラストワード」、最後の言葉…すなわち自分が死ぬときに、大切な人に何と伝えて逝きたいか…ということを考えるのです。もしかしたら認知症になっているかもしれません。もしかしたら酸素吸入や経口栄養でお話なんて出来る状態ではないかもしれません。いや悲しいかなその確率の方が高いと言わざるを得ません。「ありがとう！」、「おかげさま！」、「お前のお蔭で楽しかったよ！」…是非時々でいいので考えてみて下さい。また、自分の気に入った写真を遺影用に準備しておくのはどうでしょう。せっかく飾っていただくものですから、素敵な写真の方がいいですよね。何年か経ったらまた更新すればいいのですから…。

人は生きてきたように死んでいく…といいます。ぶつくさ愚痴ばかり言ってきた人は愚痴を言いながら死んでいく、笑顔で感謝して生きてきた人は、皆さんに感謝され感謝しながら旅立っていく。

さて、あなたはどちらがいいでしょうか？

合　掌

秋季開山忌

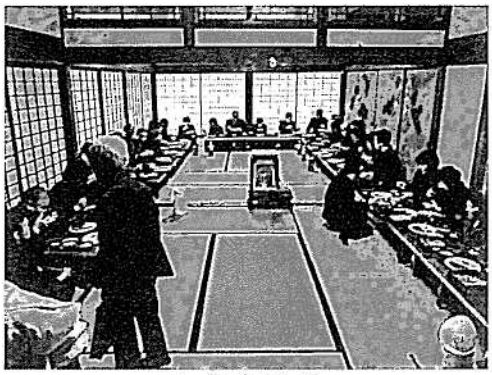
去る、11月23日、恒例の秋季開山忌が行われました。当日は肌寒く、天候も時折、日が差す程度と恵まれたとは言い難い気候ではありましたが、祝日と言うこともあり、たくさんの方に参詣いただきました。

一般参拝者は約150名程。そして塔前（当番）は、鎌田伊惣治、菊池章一、髙橋民雄各総代の下、総勢60余名の皆さんのご協力をいただきました。塔前のみなさんには、おいしい食事の支度や宝物館の受付等をしていただきました。本当にありがとうございました。

また、42名の御詠歌講員の皆さんが法要前に日頃の研鑽の成果をご披露下さいました。とても素晴らしい御詠歌です。まだお聞きでない方は、是非、一度お聞きいただきたいと思います。

これだけお檀家の皆様にご協力いただいて成り立っている開山忌は、他にないと言えます。大変なご面倒をおかけしているとは思いますが、どうぞ、これからもご協力いただきますようよろしくお願い致します。

↑住職法話



↑食事風景

↑御詠歌奉詠

平成二十三年仏具奉納者

本年は以下の方々に仏具をご寄付いただきました。
ご紹介申し上げます。

○中央高台

石鳥谷町　八日市　石森 絢子　殿

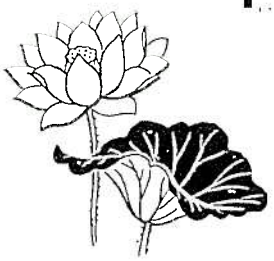
○熊野証誠殿畳十畳新調

花巻市　南万丁目　髙橋 進　殿

○廊下用絨毯

石鳥谷町　好地　藤原 憲　殿

誠にありがとうございました。衷心より御礼申し上げます。



光林寺寄席特別会

伊奈かっぺい さん

10月29日、本年2回目の光林寺寄席が開催されました。

今回は『伊奈かっぺい』さんをお招きし、“特別会”と銘打って開催しました。
伊奈かっぺいさんは東北地方を中心に活躍されていて、タレント活動だけでなく、詩作や歌手、イラストレーターなどとしても有名です。以前、光林会の40周年記念事業でお呼びしたご縁で光林寺寄席にも出演いただけることになりました。

当日は天候にも恵まれ、近年の光林寺寄席では最多となる240名近い方がお越しになり本堂内は大盛況となりました。

肝心の内容はというと・・・とても×2おもしろいものでした。残念ながら私のつたない文章力では表現しきれません(T_T) 症状としては笑いすぎで呼吸が出来なくなります。

皆さん、大笑い(^o^)の図

でも、あんなに大笑いしたくせに、その日の夜には話の内容をすっかり忘れているという、まさに『かっぺいワールド』とも言うべき恐ろしい(笑)ひとときでした。

今回も東日本大震災被災者への義援金として岩手日報社を通じて日本赤十字社に¥150,000-、ルンビニー震災ボランティアの活動資金として¥50,000-を寄付させていただきました。ご協力ありがとうございました。

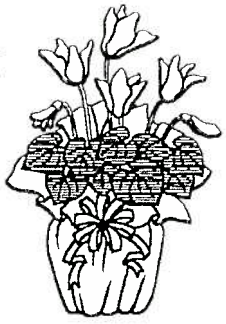
次回の光林寺寄席は6月頃に予定しております。ご期待ください。

るんびにい美術館からのお知らせ

星ヶ丘にある「るんびにい美術館」では、定期的に企画展を開催しています。今回は11月10日(木)～2月14日(火)の日程で、『うちの理想宮』～パラダイス・シフト！～と題した企画展を開催してます。

糸、布、割り箸や絵の具など、作家自身の魂が反応する素材を積み重ねて作り上げた、一人ひとりの『理想宮』をぜひご観覧下さい。

また、12月17日(土)16:00から、本企画展出品者の1人、都築響一氏がアートと人間の尽きない魅力を語るトークショーを開催します。入場無料ですのでどうぞご来館下さい。



『るんびにい美術館』（入館無料）
花巻市星ヶ丘1-21-29 TEL0198-22-5057 開館時間 10:00～17:00（水曜定休）

Q and A

Q. お彼岸について教えて下さい。

A. お彼岸は春分・秋分を中日とし、前後各3日を合わせた7日間のことをいいます。また、最初の日を「彼岸の入り」、最後の日を「彼岸明け」といいます。

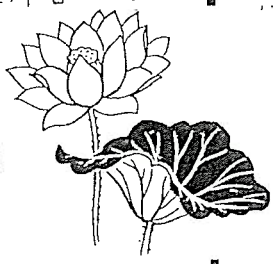
お彼岸にお寺やお墓にお参りするのは、ご先祖さまや故人を偲び、また、日頃のご無沙汰を詫びたり、またはお墓の掃除をする為と考えるのが一般的です。

しかし、これはあくまで一側面でしかありません。お彼岸の語源はサンスクリット語のPāramitā（パーラミター・波羅蜜多）で"pāram"（彼岸）＋"ita"（到）と読み、かつての高僧たちはこれを「此岸（迷い）から彼岸（覚り）に到る行」と訳されています。煩悩に苦しむ現実のこの世を意味する『此岸（しがん）』から、悟りの世界『彼岸』へと渡るための修行という意味があるのです。

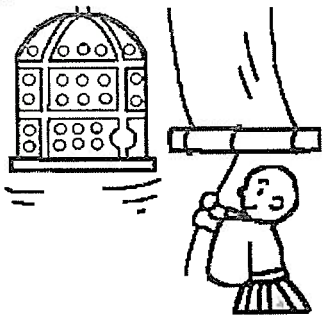
つまり、お彼岸にお参りすることの根幹にあるのは、それが『彼岸』に渡るための良い行い＝修行であるということです。皆さんはもしかして、「お彼岸だからお墓掃除しなきゃ。」とか「家族に言われたから・・・。」とか義務感にとらわれたお参りをしていませんか？何事も自発的な行いのほうが効果が高いものでしょう。

お参りという修行を通し、命の尊さやご先祖様への感謝、生かされている事実・・・そうしたことを感じ、考え、明日への活力を得ることが出来れば、それが『彼岸』への第一歩になるのです。

お参りとは、誰のためでもなく、自分自身の修行でもあるのです。



除夜の鐘＆元朝参り

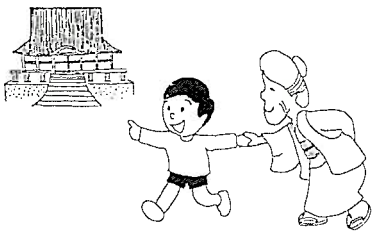


光林寺では大晦日の23:55頃から0:30頃までにお参りいただいた皆様に除夜の鐘をついていただいています。例年、大変冷え込みますので、暖かくしてお参り下さい。

また、ご希望の方には御札（阿弥陀如来・熊野権現）を正面玄関にてお授けしております。（志納￥2～3，000）

新年はまず、菩提寺と御先祖様にお参り下さい。

春季開山忌のご案内



光林寺の春季開山忌を下記日程にて執り行います。
ご家族、ご親戚お誘い合わせの上、お参り下さい。

日時　平成24年4月23日（土）
午前10時00分　御詠歌奉詠
午前11時00分　開山忌法要　法要終了後、ご法話

※春季開山忌の塔前（当番）地区は　大瀬川地区　です。
ご協力の程、よろしくお願い致します。